

教育課程・ 評価に関 すること

(1) 教育課程編成 と管理

① 教育課程の編成(基本方針)

基礎的・基本的な学習内容の習得を図るとともに、豊かな人間性を育み、自ら学び考えるなどの「生きる力」を身につけることをめざし、地域や学校の実態を考慮して、創意工夫を生かした適切な教育課程を編成する。

太字の部分は、
追加文章。

- ア. 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
- イ. 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成する。
- ウ. 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や体を育成する。
- エ. 年度の重点教育目標「~~伝え合い、認め合いにより確かな学力と豊かな心を育む~~～**自立と共生**～」を目指し、各教科・領域における具体的な方策を明確にする
- オ. 基礎・基本の確実な定着を図るため、指導内容の重点化や指導方法、指導体制の工夫改善に努めるとともに、全校統一的な学習規律の定着と「朝学習」等の計画的・系統的な指導の充実を図る。
- カ. 道徳教育の指導計画を充実し、全教育活動及び道徳の時間に行う道徳指導、実践との関連を図る。
- キ. 学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育課程の見直しと改善、実践検証を行う。
- ク. 体力の向上及び心身の健康の保持増進に関する指導について、全教育活動を通して行う。
- ケ. 標準時数の確保と適切な時数配当に努める。石狩管内教育委員会協議会教育長会で決定した60分授業を3コマ以上計画し、時数を確保する。
- コ. 5・6学年の外国語科、他学年の外国語活動の計画を充実する。

自ら学び、共に高め合い、
確かな学力と豊かな心を育む。

② 日課表

- ア. 年間を通して標準時数を確実に確保するよう努める。
- イ. ゆとりをもち、基礎的・基本的な力を高めるよう努める。
- ウ. 児童が安全に登下校できる時間帯を確保するよう努める。

エ. 留意事項

- ・児童委員会を原則月曜の5校時終了後に設定する。
- ・児童委員会の活動計画、内容は指導部による。
- ・クラブ活動は原則月曜の5校時終了後に設定し、時間は45分とする。活動は6月から11月の時期に行う。
- ・運動会、学芸発表会までの2週間を特別日課として午前5時間授業を位置づけ、行事までの準備を効果的に行うとともに、授業時数を確保する。

③時間割

- ア. 基本の時間割は別掲（第4章 ~~教育課程の基底~~）の通りとするが、これは固定時間割ではなく、週の中での時数確保の目安とする。詳細は教務部が提案する。
- イ. ~~TT・少人数、専科指導、行事による時間調整など、時数確保を踏まえながら、バランスのとれた時数配分を行い、各週の学年部会によって時間割を決定する。決定後、教務に計画案を提出する。~~
- ウ. 決定した時間割は学年通信等を通じて児童、保護者、職員に周知する。
- エ. 特別、臨時時間割表の作成
学校行事等で特別に時間割を編成する必要がある場合には、関係する分掌・係と連携し、特別・臨時時間割表を作成する。
- ・運動会特別時間割…保体部で作成
 - ・学芸会特別時間割…文化部で作成
 - ・水泳学習・スケート学習特別時間割…保体部で作成

④時数管理

- ア. 時数集計表の作成
月末に各学年の実施時数を集約し、時数実績表を作成・印刷し、ファイルに保管する。また実績については、教育課程委員会や学年部会等で各学年に周知し、バランスのとれた授業計画を促す。
- イ. 余剰時数の扱いについて
基礎基本の定着を確かなものにするために、補充学習の時間に充てる。また、突発的な臨休時による時数の減に対しては、以後の余剰時数を各教科の授業時間に充てることとし、前記標準の総授業時数を確実に確保するようにする。

⑤校内教育課程委員会

- ア. 構成：校長・教頭・教務部教育課程係・各学年1名をもって構成する。
また、教育課程の編成に関わって必要に応じて各部代表を加える場合もある。
- イ. 内容：各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の教育課程の編成・実施、評価についての検討、及び学習指導要領に基づく教育課程の評価と改善。通知表の評価項目や評価基準の検討・改善。

※具体的な内容

日課表、題材配当、指導計画、評価基準の検討・改善など、教育課程にかかわること全般。

通知表や指導要録等の評価項目や評価方法の検討・改善など、評価にかかわること。

ウ. 教育課程の資料化

教科・みどり等で各学年の実践を元に、教育課程の改善のための資料収集を図る。

⑥「みどり」（総合的な学習の時間）の推進

※詳細は「教育課程の基底」p 45～

ア. 本年度の指導の重点

- ・地域の自然・施設・人材などを効果的に活用しながら、主体的な課題解決を目指す活動を目的とした題材の工夫に努める。
- ・学び方や考え方を習得したり、情報収集力・活用力や表現力が身につくことを目的とした多様な活動をしたり工夫する。

イ. 内容選定における留意点

「総合的な学習の時間」の目標である以下の点に留意した内容とする。

- ・国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についてとりあげたもの
- ・地域の伝統や文化などに関する課題についてとりあげたもの
- ・児童の興味関心意欲を刺激する課題について、児童自身が解決の手立てを見いだすことができるもの
- ・職業や自己の将来に関わる課題についてとりあげたもの

ウ. 全校みどり（アイヌ文化学習）

3～6学年で共通のテーマを持って取り組む活動

…『伝統文化』『環境』

エ. 学年みどり

- ・アイヌ文化学習や学年みどりの実践については、記録化し、次年度に資料を引き継ぐようにする。
- ・探求的な学習の充実を図るために、体験活動などを通して課題意識を高め、調査、見学などによる情報収集が可能なものを選択して活動させるようにする。
- ・発表・討論・ファイル化などの活動を含むものとする。
- ・活動名（小単元名）は、活動が具体的に想起できるように設定する。

オ. 活動推進の基本的な方針

- ・全校みどりについては関係する分掌・係と連携してすすめていく。
- ・学年みどりについては、これまでの活動の積み上げを生かしながら、課題解決をめざす活動となるよう内容を計画し、総合的な学習の時間のねらいの達成を図る。
- ・学年みどりの活動内容を選定する際には、テーマを逸脱することのないよう配慮し、カリキュラムに従って計画する。
- ・前期と後期にそれぞれ一単元の課題解決学習を組み入れ、その単元を評価対象とする。

(2) 学習指導 学習指導の基本は、次の通りとする。

問題解決的学習

- ・指導過程は課題解決学習を基底とし、教科や単元などの特質に応じて対応する。「学びのスタイル」として学習過程の共通実践化を図る。
- ・教材の精選に努め、子ども一人一人の特性や個性に応じた指導の工夫及び改善を図る。
- ・指導の効果効率を考慮し、教科担任や交換授業及びティームティーチング、少人数指導等の協力教授組織の工夫に努める。
- ・学年部会については、その充実を図る中で、教材の精選や重点化、教材の分析、教材教具の活用、進度等指導内容の共通理解を図るとともに、その実践化に努める。
- ・学習集団づくりの工夫や基本的な学習習慣の定着に努める。

① 基本的学習習慣の定着（学習規律）

学習への構えを持たせるため、「学びの約束」を教室掲示し、指導・定着を図る。（別紙資料参照）